利用者名：医療保健学部　リハビリテーション学科　作業療法学専攻　講師　大野 勘太

Title:	Cross-Cultural Adaptation and Psychometric Evaluation of the Occupation-Based Practice Measure in Japan
論文名（和訳）	Occupation-Based Practice Measure 日本語版の異文化適応および尺度特性の検証
Authors:	大野勘太（東京工科大学），廣瀬卓哉（昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院），髙橋香代子（北里大学），天野暁（北里大学），京極真（吉備国際大学），沖田勇帆（CoColour Life Pty Ltd），柴橋広智（東京工科大学），Mohammad Khayatzadeh-Mahani（Ahvaz Jundishapur University）
Journal:	OTJR: Occupational Therapy Journal of Research
掲載年月	2026 年 10 月

研究概要：作業に基づく実践（Occupation-Based Practice：OBP）は、対象者にとって意味のある作業への参加を支援する、作業療法の中核的な実践である。しかし、日本では OBP の実施状況と、それを促進・阻害する要因を多面的に測定できる、尺度特性の検証された日本語質問票が存在しなかった。本研究では、原版 Occupation-Based Practice Measure（OBPM）を日本語に翻訳・異文化適応し、全国 44 施設の作業療法士 351 名を対象として、内容的妥当性、構造的妥当性、内的整合性、再検査信頼性、測定誤差および経験年数による測定不変性を検証した。その結果、OBPM-J は良好な内容的妥当性と一定の信頼性を示し、日本の作業療法士における OBP を定量的に把握するための基盤となることが示された。

研究背景：OBP は作業療法の理念的中核である一方、臨床現場では時間的制約、組織体制、教育機会、医学モデルの影響などにより、その実践にはばらつきがある。OBP を推進するためには、作業療法士の実践状況だけでなく、実践環境、OBP に対する態度・知識・関心を体系的に評価する必要がある。
原版 OBPM は、OBP の使用度、実践を支える環境、OBP に対する態度、知識および関心の 5 領域・37 項目から構成される自己記入式尺度である。しかし、原版で確認された尺度特性を、言語・文化の異なる日本でそのまま適用することはできない。そこで本研究では、国際的な指針に基づいて日本語版を作成し、日本の作業療法士を対象にその尺度特性を検証した。

研究成果：原著者の許諾を得たうえで、順翻訳、翻訳の統合、逆翻訳、専門家委員会による検討および予備調査からなる異文化適応を実施した。予備調査では、多様な臨床領域に勤務する作業療法士 43 名から回答可能性と表現のわかりやすさについて意見を得た。また、10 名の専門家による 2 回の評価を行い、優れた内容的妥当性を確認した（S-CVI＝0.97）。
全国 44 施設の作業療法士 351 名を対象に尺度特性を検証した。確認的因子分析では、因子負荷量の低かった 4 項目を除外した 33 項目モデルにおいて適合度が改善したが、5 因子構造の適合度は一部の指標で基準に達せず、構造的妥当性には追加検証の余地が残った。5 領域のうち 4 領域では良好な内的整合性が認められた一方、「OBP への関心」領域の内的整合性は十分ではなかった。
120 名を対象とした再検査では、尺度全体で良好な信頼性を示した（ICC＝0.873）。測定誤差を超えた変化の目安となる最小可検変化量は、総得点で 1.94 点であった。経験年数別の分析では配置不変性と測定不変性が支持されたが、切片不変性は完全には支持されず、経験年数間の得点比較には慎重な解釈が必要であることが示された。

社会への影響：本研究により、日本の作業療法士が OBP をどの程度実践しているか、また、その実践を支える要因や妨げる要因を 5 つの視点から捉えるための共通基盤が整備された。OBPM-J は、作業療法士自身の実践の振り返り、教育上の課題の把握および組織的な実践環境の検討に活用できる可能性がある。
今後、反応性や意味のある変化量を縦断的に検証することで、OBP 教育プログラムによる教育効果や、教育に伴う作業療法士の成長を評価する尺度としての活用が期待される。本研究は、OBP 教育プログラムの開発と、多様な実践領域を対象とした多施設共同

研究へ展開するための基盤となる成果である。

専門用語：

OBP： *Occupation-Based Practice* の略。対象者にとって意味のある作業への参加を中心に据えた作業療法実践。

OBPM：Occupation-Based Practice Measure の略。作業療法士による OBP の実施状況と、それに関係する環境、態度、知識および関心を評価する自己記入式質問票。

OBPM-J：OBPM を日本語に翻訳・異文化適応した日本語版尺度。

測定特性： 評価法が意図した内容を測れているか，繰り返しても安定した結果が得られるか，状態の変化を捉えられるかなど，評価法の性能を示す性質.

COSMIN： 健康状態を測る質問票などの測定特性について，研究の質と結果の根拠を体系的に評価するための国際的な指針.

測定不変性： 経験年数などの異なる集団において、尺度が同じ概念を同じように測定しているかを示す性質。

最小可検変化量： 測定誤差の範囲を超え、実際に変化したと判断できる最小の得点差。